

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	37285
事業名	障がい児地域支援マネジメント費					
評価担当課	所属名	保)障がい保健 障がい福祉課				
	課長名	児玉 哲寛	担当者名	東 如恵	電話番号	011-211-2936
施策名	主	地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	具体的取組の一つとして、障害児通所支援事業所における個別支援情報ファイル「サポートファイルさっぽろ」の活用を促し、途切れのない一貫した支援が行われる体制を整える(2022年度までに障害児通所支援事業所でのサポートファイルさっぽろ活用率30%を目標とする)。			
		長期	障がい児地域支援マネージャーが障害児通所支援事業所へアウトリーチして情報発信・助言、関係機関間の支援調整等を行うことにより、事業所の療育体制の改善や家族支援強化を図る。			
	取組内容	児童発達支援センターに障害児地域支援マネージャーを配置し、担当区域内の療育に関する情報発信、障害児通所支援事業所への専門的療育支援や関係機関の支援調整を実施。(R4年度民間児童発達支援センターに8名)				
	実施結果	令和3年度対象区9区(豊平区を除く)の障害児通所支援事業所(535件)に対し、累計632回の訪問等を行い、質の向上を図るためのバックアップを実施した。また、関係機関連携や、家族支援を行うためのツールとし普及啓発をすすめている『サポートファイルさっぽろ』について、アウトリーチの際、普及啓発を依頼しているが、事業所での活用率は23.5%であった。また、年2回の障がい児地域支援マネージャー会議、年1回の児童発達支援センターにおける地域支援検討会議を実施している。				
事業実施における工夫点	アウトリーチによる事業所のバックアップと、年2回のマネージャー会議、年1回外部機関を入れた地域支援検討会議を実施し、情報交換を行うとともに、より効果的な実施手法について検討を行っている。					
対象者	障害児通所支援事業所	開始	0 年度	終了	0 年度	
関連法令・条例・要綱等	児童福祉法 障害者総合支援法第78条第2項(都道府県地域生活支援事業)					
他都市の状況	全く同一の事例はないが、岡山市等で類似の事業が実施されている(地域生活支援事業の児童発達支援センター機能強化事業)。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	22,832	31,000	26,772	31,000	
うち特定財源	0	0	0	0	
人工	0.3	0.3	0.3	0.3	
人件費	2,160	2,160	2,160	2,160	
計(事業費+人件費)	24,992	33,160	28,932	33,160	
事業費の内訳	令和3年度決算	委託料 26,772千円 民間児童発達支援センターへ障がい児地域支援マネージャーを7名配置			
	令和4年度予算	委託料 31,000千円 民間児童発達支援センターへ障がい児地域支援マネージャーを8名配置			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	障害児通所支援事業所訪問数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	567	498	632	588	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	障害児通所支援事業所におけるサポートファイルさっぽろ活用率			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	23	26	23.5	30	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	マネージャーを段階的に増やしており、令和3年度は、対象区(豊平区を除く)535事業所に対し、マネージャー7名632回の訪問等を実施した(1カ所に複数回の対応を含む)。対象区のほぼ全ての事業所に対してアウトリーチできており、家族支援強化や療育の質の向上のための情報提供。相談支援を行っている。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	他都市で同様の事業は実施しておらず、比較が困難だが、サービスの規模や水準、対象者の範囲等について適切であると考ええる。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	令和3年度は民間児童発達支援センターに7名のマネージャーを配置。。マネージャーは経験者が担当が、会議等で各マネージャー間の情報共有や研修等を適宜行い、より効率的で効果的な事業となるよう検討を行っており、実施手法は適切であると考ええる。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	障害児通所支援事業所職員からマネージャーに対し相談が入ることが増えたり、療育体制や家族支援強化が図られる事業所の増加などがみられることから、対象者ニーズに応えられていると考える。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	令和4年度より、本事業は全市体制での取組となる。各事業所の家族支援強化・療育の質の更なる向上に向け、マネージャーの質の向上、関係機関とのネットワーク構築を目指していく。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	マネージャー数: 令和3年度7名⇒令和4年度8名に増員 対象区: 令和3年度9区⇒令和4年度10区に拡大		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	一定の成果を上げていると考えられるため				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 令和4年度より、空白区がなくなるため、引き続き訪問等のアプローチで障害児通所支援事業所の活動状況の把握や事業所に対する情報発信・療育支援を進めるとともに、関係機関との情報交換を行い、有機的なネットワーク構築を目指していく。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 今年度と同様		見直し効果額	0 千円